

「県立高等学校の今後の在り方」についての地方別懇談会 【紀北エリア [伊都・那賀地域] 会場】概要

(令和2年10月1日(木) 18:30~20:15 粉河ふるさとセンター 小ホール)

- 1 挨拶 和歌山県教育委員会 教育長 宮崎 泉
- 2 説明 和歌山県教育委員会 教育企画監 清水 博行
- 3 質疑

[質疑においていただいたご意見やご質問]

○今後の進め方について

- ・これから高校で学ぶ人の意見を聞くような場を設けてほしい。
- ・意見をしっかり聞いて、プログラムをつくってほしい。
- ・同窓会等で意見をまとめるにしても時間が必要である。

○教育の内容、学校の状況について

- ・進学を目指すため普通科をきっちりと設けていく必要がある。
- ・教育に関する予算を増やして、30人学級が実現できないか。
- ・支援を必要とする子供に対して、小学校から高校まで一貫性のある指導ができているか。
- ・特別支援学校の過大化を受けて、支援学校の新設は考えられないか。
- ・どのような高等特別支援学校をつくるのか。
- ・私立高校との関係についてどう考えるか。
- ・高校入試による選抜という考えを転換する時期に来ている。

○地域の状況等について

- ・人口を増やしたり、子育て世代を県に呼び込んだりする必要がある。
- ・これまで学校がなくなると、地域の商店等が少なくなることもあった。
- ・地域の特性を生かした在り方を考えてほしい。
- ・県の将来ビジョンに即して学校の在り方を考えるべきである。

[質疑における県教育委員会の回答及び見解]

多くの方々にご参加いただきありがとうございます。今回の懇談会では、学校関係者や地域の方々の声を、たくさん聞かせていただくことができました。

答申では、各地域の県立高校の在り方がかなり具体的に明示されておりますので、教育委員会としては、これを十分に踏まえ、学校と地域の持続可能性に繋がる再編整備実施プログラムを作成してまいります。

地域の方々の不安や懸念はもっともなことと理解しています。しかし、一方で、今後短期間で生徒減少が進行する中、学校の活力が大きく低下する前に、県立高校の将来像をいち早くお示しし、本県の高校教育の再構築に繋げることが急務であると考えております。

再編整備実施プログラム(案)の提示までに、皆さんの意見をしっかりと伺ってまいります。小中学校の先生方や市町村教育委員会、地域の声は、地域の県立学校を通じてお届けください。なお、今回の懇談会でも、意見を聞いてほしいというご要望が多く寄せられたことにつきましては、真摯に受け止めております。

支援を必要とする生徒の学びの保障など、貴重なご意見はプログラムに反映させていきます。一方、既存の施設設備の有効活用の在り方や、30人学級の実現等については、難しい課題もありますが、一つ一つ検討していきたいと考えています。